

※研修では、「組織マネージメントコース」のほかに、途上国の現場でのプロジェクトの進め方を学ぶ「プロジェクトマネージメントコース」も実施。

研修の成果は早速生かされた。組織のビジョンや戦略を立てる際に有効な現状分析の手法を学んだ伊吾田さん。すぐに持ち帰り、これまでの活動の洗い出しと組織の現状を見つめ直すことから始めた。「TPAKの強みと課題、目指す方向性などを内部で再確認でき、改善点も明

**築き上げた
企業との信頼関係**

て参加し、今では事務局長を務める伊吾田善行さん。これまで、現地、国内とまさに東奔西走の日々を送ってきた。
「それでも、ただいたずらに組織を大きくする気はありませんでした。より質の高い活動を行うため、体制をきちんと見直し、組織の力をもう一段階向上させる必要を感じていました」
そんなとき、07年からJICA A地球ひろばがNGOの人材育成と組織強化を目的に行う「組織力アップ! NGO人材育成研修」を知った。すぐに参加を決め、組織の現状分析や組織強化のためのさまざまな手法、広報活動、支援者拡大などについて学ぶ「組織マネージメントコース」を受講することになった※。



企業向けのプレゼンテーション・コンペで、協働企画を提案する伊吾田さん。「企業の目線に立った企画づくり、効果的なプレゼンの仕方など、きめ細かい指導を受けることができた」

確になりました」
TPAKが抱えていた大きな課題の一つが、積み上げてきた実績や活動の意義などを効果的に伝えられる魅力的なパンフレットや広報ツールがなかったこと。「以前は、企業などに支援の依頼に行っても、口頭で一生懸命説明しなくてはならなかった。研修では、大手広告代理店に所属する専門家の指導のもと、デザインやサイズなどを工夫し、一般の人にも親しみやすいパンフレットを作成した。また、効果的なプレスリリースの書き方も学び、以来、積極的な情報発信を行っている。

研修で受けたアドバイスを生かし、新しく作成したパンフレット。参加したイベントなどで、効果的に活用されている



研修の最後には、研修成果の発表を兼ねた「国際協力NGOによるプレゼンテーション・コンペ」が、JICA地球ひろばと公益社団法人日本フィランソピー協会の協力で開催された。企業とNGOとの協働企画の内容とプレゼンテーション能力を競ったこのイベント。審査員となったのは、「企業の社会的責任」(CSR)に基づく社会貢献活動のパートナーとして、国際協力NGOの活動に注目する25社の大手企業関係者たちだ。
TPAKは、社員の健康増進活動と子どもたちへの栄養支援を結び付けた企画を提案。その

「研修をきっかけに、企業と信頼関係を築くことができた経験は、TPAKにとって大きな財産です。今後も、このように外部から信頼される組織体制づくりや活動を続けていきたい」
活動を支えるボランティア、良きパートナーとしての企業、そして、NGOの活動をより実りあるものにしようと、人材育成と組織強化を支援するJICA A.さまざまな出会いやサポートのもと、組織の成熟度を高めようと努力を続ける伊吾田さんの情熱は、一段と大きくなっている。



キッコーマン本社でTPAKが開催したイベントの様子。「これをきっかけに、多くの方がタイの子どもたちのことに興味を寄せてくれるようになりました」

力あるNGOを育てるために

もっと組織の力を向上させたい。

そんな決意とともに、NPO法人地球市民ACTかながわが、

JICA地球ひろばの「組織力アップ! NGO人材育成研修」に参加した。

研修で得た学びは、組織の課題を改善するだけでなく、新たな活動の舞台を切り開いている。



TPAKが設立以来支援を続けている、タイの山岳少数民族カレン族の子どもたち。栄養・教育支援に加え、子どもたちの寮の建設や奨学金の支給も行っている

**体制を見直し
もう一つ高いレベルに**
週に4日、横浜港に程近いNPO法人地球市民ACTかながわ(TPAK)の事務局は、世代もバックグラウンドも異なる多くのボランティアでにぎわう。「自分でできる身近なことを通じて、国際協力をしたい」。皆、そんな思いを胸に、支援品の仕分けやイベントの準備、事務作業などに取り組む。
1993年、タイ北部の山岳少数民族の学校で行った、給食用野菜の栽培支援から始まったTPAKの活動は、その後、着実に活動の規模と範囲を広げてきた。現在は、タイの東北部や中部をはじめ、ミャンマー、インドの山岳少数民族や地方農村部の貧しい子どもたちへの栄養、教育、生活改善支援などを展開。また、年間90件以上のイベント参加、国際理解講座、スタディーツアーや料理教室など、国内でも精力的に活動を広げており、協力するボランティアは年に延べ1500人以上に上る。
「設立から15年近く。支援者を徐々に増やしながらか、TPAKは常に走り続けてきました」。2001年からボランティアとして

アイデアに興味を持った食品メーカーのキッコーマン株式会社が、パートナーに名乗りを挙げた。
そして、社員のアフターファイブを利用したタイ料理教室をこれまで数回にわたり協働で開催。併せて、山岳少数民族の暮らしの紹介や、TPAKが支援する学校を舞台にしたドキュメンタリー映画の上映も行った。参加した社員からも好評で、子どもたちの進学支援に募金が寄せられたほか、イベント後も「現地のために」と、社内で集められた文具や日用品が継続的に送られてきているという。



ボランティアの活発な活動が、TPAKの特徴の一つ。「グローバルフェスタJAPAN2009」での出店には、二日間で50人近いボランティアが参加した